

## カキノヘタムシガの防除時期の予測に向けて！

カキノヘタムシガ越冬世代成虫の発生時期は、カキの開花時期と重なることから、開花時期を指標にして第1世代幼虫の防除時期を予測できそうです。

カキノヘタムシガ(カキミガ：写真)は、カキで最も恐れられている害虫で、本県での成虫の発生時期は、5月末～6月中旬(越冬世代)と7月下旬～8月中旬(第1世代)です。卵を主にカキの頂芽や腋芽に産み付け、1～2週間でふ化した幼虫は、芽を食べた後に果実に移動して加害を続けます。

本種の防除時期は、成虫の発生を樹上での観察により推定しており、その調査には熟練と労力が必要でした。

今回、ほ場での観察から越冬世代成虫の発生時期がカキの開花時期と重なる(下表)ことが判り、カキの開花状況を指標に第1世代幼虫の発生時期を予測できる可能性が見えてきました。今後、この関係を詳しく調べて第1世代幼虫の防除時期を簡単に予測できる手法を開発します。



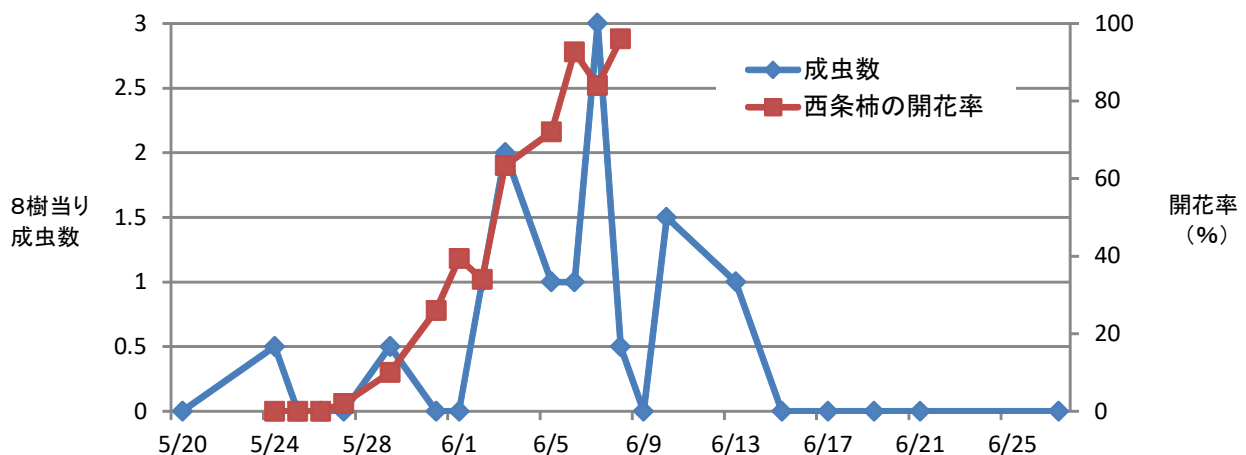
幼虫による果実の被害  
(へた部の加害)



葉上の成虫



老熟幼虫



カキノヘタムシガ越冬世代成虫の発生推移とカキの開花(2011)